

インタビュー
コーナー

40年ぶりに生まれ育った故郷の石垣に単身赴任して、あっという間に3年目になりました。八重山病院新築移転に向け、地域住民と共に最南端の特色ある病院を目指したいと思います。



県立八重山病院 院長
依光 たみ枝 先生

質問 1. 県立八重山病院院長ご就任おめでとうございます。ご就任に当たってのご感想と今後の抱負をお聞かせ下さい。

病院長就任時、「おめでとう！」と皆からお祝いの言葉を頂きました。しかし中部病院研修医時代の1期先輩（現在、大学病院の教授）からは「御愁傷様！」と肩をたたかれました。本音は後半の先輩の言葉がぴったり…。

というのも就任早々、2人の医師が中途退職、1人は来年退職と知らされたからです。病院事業局と密に連携を取りながら、医師確保に奔走しても商談？は成立せず、医師確保がいかにも大変かを思い知らされました。4、5月はうるま市の実家に帰る余裕はなく、土日石垣の社宅に居たのは1回のみというハードスケジュールに、さすがに夜眠れない日々が続きました。

さらに副院長時代からの懸念事項であった電子カルテ導入が、平成25年2月に決定し、病院全体の意思統一、ベンダーのデモに追われている最中に、県議会での「新八重山病院早期着工」の知事発言！、「大変な時期」に院長になった！！というのが本音でした。

しかし知人から「大変という字は、大きく変わると書く」と言われ、その言葉がずしっと胸に響き、逆に大変さを楽しもうという気持ちになりました。

その後も、出張の度に病院で色々な事が勃発し、衛星アンテナで監視されてるのかと勘ぐる程で、急遽予定変更し飛行機のキャンセル待ちが日常化しつつあります。今日はどんな事が起こるのかな、どんな試練が待っているのかなと、楽しみながら期待しないとやっていけないのが院長職なのかもしれないと、菩提樹で悟りをひらいた仏陀の心境になりたいと思うこの頃です。

今後の抱負は？とのことですが、八重山病院の基本理念4S（後述）に日本語版4Mを追加したいと思います。

- ・無理せずに：楽しく働ける職場で
- ・無視せずに：Fine Team work で
- ・無駄をなくし：病院経営へ参加し
- ・皆に信頼される病院をめざす

「S、Mってサド&マゾ？」と言われないためには、どのMも全職員の協力と努力が必要です。自分の大切な人が安心して治療が受けられ、「八重山病院がなくては困る」と地域住民から愛され、頼りにされる病院にしたいと思っています。

質問 2. 11 の有人島があり、地元住民のほか多数の観光客が常時滞在する八重山医療圏域の中核病院として重要な役割を担っておりますが、医師不足、救急医療を含めた離島医療の現状と課題についてお聞かせ下さい。

「その立場にならないと解らない事がたくさんある」と、34 年間の中部病院での勤務で研修医に常々言っていた事が、生まれ故郷に 40 年ぶりに戻って来て、その言葉を自分自身で噛み締めています。

前述しましたが、この 4 月から医師確保の大変さを実感させられています。最南端の地域中核病院として不採算部門の救急（救急車出動の約 80% が当院に月約 150 件搬送され、入院患者の約 60% が救急室からの入院）・周産期（八重山医療圏でお産ができるのは当院のみ、年間約 650 人の次世代を担うベビー誕生）・小児（NICU・小児入院患者を診ているのは当院のみ）、離島巡回診療も行いながらの精神医療、災害拠点病院、結核・感染症病棟、がん地域支援病院、研修協力病院等等…。体力勝負の初期研修医が 50 人以上はいた中部病院とは全く異なった環境で、老体？にムチ打ってまた研修医と同じように救急室、病棟にコールされ日常診療をこなしながら離島代診（当院だけで年間延べ 102 日）、巡回診療（延べ 117 日）、訪問診療（在宅患者 40～50 人）、急患ヘリ搬送・洋上救急（年間 120～150 件）を管理者を含めた 48 名の医師で担っており、麻酔科専門の私ですが、できるなら救急当直を変わってあげたいと思う程です。離島医療を支えるには、まずヒト（医師を含めた医療・事務スタッフ）、モノ（医療機器）、カネ（離島増こう費などの離島が故の必要な予算）が絶対必要なのに、事はスムーズには運ばず特に人材確保は大きな課題です。

質問 3. 県立八重山病院の新築に向けての現在の進捗状況と、将来の展望等についてお聞かせください。

八重山病院の基本理念は「八重山医療圏に科学的根拠に基づいた医療を提供します（4つの S）」となっています。

①安全（Safety）

「安全な医療」を提供します

②安心（Security）

「安心でやすらぎのある環境」を提供します

③サービス（Service）

「患者中心のサービス」に努めます

④満足（Satisfaction）

「満足の頂ける医療」を提供します

しかし昭和 55 年に現所在地に移転してから、33 年以上経過した病院は安心・安全の 4Sどころかいつ人身事故が発生してもおかしくない程、老朽化しています。天井板、コンクリートが落下し、給湯管が破裂し、給水管は動脈硬化を起こし水圧不足で出張透析ができなかったり、今回の台風 7 号の直撃でアルミの天井板は吹き飛ばされ、滝のような雨漏りで救急室は使えず、自家発電機は緊急停止し、いつ病院機能が停止してもおかしくない現状です。視察に来院した県知事に「4 年では遅い、3 年後オープンを目指しなさい」と言わせた程でした。

新八重山病院の進捗状況は、実は電子カルテ選定の真っ最中で、新病院検討会は遅々として進まずというのが現状です。しかし早急な着工に向け、今基本構想と土地の選定に病院と事業局が協力して案を作成しているところですが、特に土地選定は難航しそうです。

将来の展望としては、患者・職員・来院者に優しい病院、自然エネルギーを最大限に活用し自然に優しい病院、ICT を活用し経営面でも低コストで運営できる病院作りに全職員で努力し、同じ離島の宮古とは異なる八重山特有の病院を作りたいと思います。今年の 3 月に新空港が開港してから国内外の観光客が前年の約 2 倍に急増しています。沖縄本島を含む旅行者の入院は昨年 250 人でしたが、恐らく今年はさらに増加する事が予想されます。また週 2 回台湾からのクルーズ船で月に 14,000 人以上の外国人が石垣を訪れており、輸入感染症に対応できる感染症病棟の整備は必須です。

夢は大きい方がいいと思っておりますが、建物よりっぱになったけど、ソフトが充実しなければ八重山病院、ひいては国境の島の存続に関わ

る事なので、病院スタッフの努力と行政・八重山住民のバックアップは絶対必要です。

質問 4. 県医師会に対するご要望がございましたらお聞かせください。

離島医療を維持していくには、マンパワーが必要です。県医師会のなかに代診も可能な Dr. プール制を作って欲しいと思います。また離島巡回講演会も計画してくれたらありがたいです。

質問 5. 最後に日頃の健康法、ご趣味、座右の銘等がございましたらお聞かせ下さい。

中部病院勤務時代は徒歩出勤で毎日 40 分間は歩いてましたが、石垣に単身赴任してから車

での通勤で体重が 2kg 増加してしまいました。出勤前と寝る前に「ラジオ体操」と若返り？体操をしていますが、摂取カロリーが多く体重計に乗るたびに反省しきりです。

趣味は自己流川柳、落語で笑う事、温泉でのんびりリフレッシュすることですが、日帰り出張が多くゆっくりと旅を楽しむ機会が少なくなってきました。

座右の銘は学生時代の「努力に勝る天才なし」から「有言実行」へ変化しつつあります。

この度はお忙しい中、ご回答頂きまして、誠に有難うございました。

インタビューアー 広報委員 本竹 秀光

